

持続可能な農業を目指して

自然農法をウガンダと日本で実践することによって、生産者にも消費者にも笑顔届けたい。

株式会社クリスタル
代表取締役社長 木下正義

コロナ禍で大変な時だからこそ

新型コロナウイルスが世界的に影響を及ぼす中、ウガンダ共和国でもロックダウンが発令され、国民の生活や経済に大きな影響が出ている。私たちも、2020年5月のウガンダ渡航が中止となり、今度こそはと予定していた本年3月の渡航も早々と中止にした。同国を訪れることもかなわない今、電話やWEBを介して現地とのやり取りを続ける以外にない。現状で私たちにできることは契約農園生産者の生活の基盤であるコーヒー豆の輸入を止めないこと。また、新たな挑戦としてスタートさせたコーヒー豆以外の生産者が育てた同国産「バニラビーンズやカカオ豆、ドライフルーツなど」の輸入を継続していくことだ。

当社もこのコロナ禍での運営は言うまでもなく大変厳しいが、これまで以上に消費者の健康に対する意識が高まっており、薬剤に依存しない自然のサイクルで育てた当社契約農園のウガンダ

コーヒー豆だけは好調である。ウガンダからのコーヒー豆は予定日より3カ月遅れ、2020年12月28日に入港した。本来は年に1度の輸入だが、今年4月中旬にも新たなコーヒー豆が入



コーヒー豆を運ぶ女性

港する。コーヒー豆以外の農産物も昨年の8月に商品化を実現したことで、少量ではあるが輸入を継続できている。

このような苦境にあって思い出す光景がある。24年前に初めてウガンダ共和国で見た、内戦によって国や故郷を追われた180万人以上にのぼる難民の姿だ。そこから国民一丸となり今のウガンダ共和国を築いた強さを思い起こすと、改めてそこで暮らす人々に助けられていることに気付かされる。

ストレスフリーな生活体験を

6年前から当社は岐阜県大垣市上石津町に約1万坪の「くりすたるファーム」を所有している。最初は私1人でジャーマンカモミールの栽培を開始した。それが今では地元生産者と共に11種類の農産物を栽培するまでになった。特に自然農法で栽培するジャーマンカモミールは、コロナ禍の中で需要が高まっており、作付けを3倍に拡大した。しかし、農業で雇用を生み出すだけでは本当の意味での地方創生(元気)とは言えない。やはり、人と人との交流が不可欠だと考え、地元自治体の協力も得ながら検温などの徹底した対策を講じた上で、自社農園を開放してジャーマンカモミールの摘み体験や里芋の収穫イベントを実施することにした。東京や名古屋、京都など都会からの参加者の中には、日ごろ自宅から出られずストレスをためている人もいる。土の上を裸足で走り回る子どもたちや、



カモミールを収穫

地元生産者と談笑しながらの収穫を楽しむ大人たちの、ストレスフリーな農業体験をする姿を見て開催して本当に良かったと感じた。

私たちが目指しているのは「観光農業」だ。日本全国からファームへ来ていただき、農業体験や交流、空き家を活用した民泊体験などを通して、地方創生や持続可能な農業に積極的に取り組み、地域をさらに盛り上げていきたい。

フェアトレードにこだわる

私たちは24年前から持続可能な社会や農業を目指して取り組みを続けている。

女性が輝く農業 女性はとても丁寧な作業をし、細かいことができ、すぐれた気付きやアイデアをもっている。ウガンダでは都心部でこそ女性の活躍が目立つようになってきたものの、地方においては女性の地位がとて低く、男女格差が改善されていないというのが実情である。そこで、当社の契約農園では積極的に女性生産者を採用し、今や全体の2割が女性だ。日本国内でも自社農園では女性が責任者を務めるなど、女性が働きやすい農業の実現に向けて力を注いでいる。女性を積極的に雇用することで女性の活躍の場、女性が輝くことができる場を提供していきたい。

フェアトレード ウガンダにある契約農園には年に最低1度は訪れコミュニケーションを

欠かさない。直接コーヒー豆を輸入し、コーヒーの値段も毎年相場に合わせて農園主と相談しながら決定する。双方が納得して取引を行い、そして適正価格でコーヒー豆を販売することこそが本来のフェアトレードであると考えている。私たちが大切にしているのは、農園者家族の生活を保証することであり、子どもたちの未来を守ってあげること、そして、私たちが暮らす自然を守っていくことだ。

環境保全 「薬剤に依存しない」ことは環境保全につながる。ウガンダの伝統的な自然農法と、日本国内で実践する自然農法について、情報交換を行うことで、これまで以上に良い農産物ができる。本年入港したウガンダコーヒーはその品質が認められ、国内におけるスペシャルティコーヒーを認定する鑑定士(企業)から、「スペシャルティ」の基準を満たしているとの評価を受けた。

生産者も消費者も笑顔に

農業は一言では表すことができないほど大変な作業ばかりではあるが、青い空に澄んだ空気、風の音などの自然を感じながら収穫をする時は日常を忘れることができる。さらに、収穫した農作物を実際にお客様に提供し「おいしい!」と言ってくれた時のうれしさ。食べ物への感謝の気持ちをよりいっそう強くもつことができる。助け合い、環境を守り、生活の糧につなげていくことによって生産者も消費者も笑顔に。後世に残していくための活動をこれからも続けていきたい。



(きのした・まさよし)
中国大連外国語大学留学後、勝原コーヒーに入社。2006年7月に株式会社クリスタルを設立。世界各国の輸入コーヒー生産者家族と豆の製造販売を行っている。